

- 米国/カナダの小児がん治療生存者（生殖腺平均線量：女性1.26Gy、男性0.48Gy）の子供と患者兄弟の子供を比較した疫学調査では、「生殖腺の平均線量から予測される染色体異常やメンデル遺伝病の増加」※を示していない。

出典：Green DM et al: J Clin Oncol Vol.27, 2009: 2374-2381

※マウスの遺伝性影響研究をもとに、
ICRPは、
「放射線による遺伝性疾患の倍加線量* = 1グレイ」と推定

* 倍加線量：ここでは遺伝性疾患の罹患率が2倍に増加する生殖腺線量のこと

米国/カナダの小児がん治療生存者の子供に対する調査結果では、原爆被爆二世調査と同じく、染色体異常、メンデル遺伝病、奇形の過剰発症は認められていません。マウスの遺伝性影響研究をもとに、ICRPは、放射線による遺伝性疾患の倍加線量を1グレイと推定していますが、小児がん治療生存者の子供を対象にした調査結果では、生殖腺の平均線量からICRPの推定をもとに予測される染色体異常やメンデル遺伝病の増加は認められませんでした。

出典

• D.M. Green et al.: J. Clin. Oncol. 27: 2374-2381, 2009.

本資料への収録日：2018年2月28日

改訂日：2026年3月31日